

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成19年10月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4079100162		
法人名	有限会社 北村		
事業所名	グループホームなかま		
所在地 (電話番号)	福岡県みやま市高田町岩津785		(電話) 0944-22-6568
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成19年10月2日	評価確定日	平成19年11月26日

## 【情報提供票より】(19年 9月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 8 人
職員数	11人 常勤 7人 非常勤 4名 常勤換算 6名

### (2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造瓦葺	造り
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 90,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

### (4) 利用者の概要( 9月 1日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	8名
要介護1	2名	要介護2	2名	
要介護3	3名	要介護4	1名	
要介護5	0名	要支援2	0名	
年齢	平均 89.6歳	最低	84歳	最高 100歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ヨコクラ病院・江の浦病院・さかベククリニック・二宮歯科クリニック
---------	----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな田園地帯の中で四季の風景をホームから眺めることができる。ホームの敷地には菜園があり、利用者が野菜を作り、収穫し食卓に上がることもある。ホーム内は明るく家庭的な雰囲気、安全に出入りや移動ができるように配慮している。管理者は、老人保健施設や訪問看護等の経験を活かしながら「地域社会と交流し、自分らしさを継続し心より笑える笑顔の生活」という理念の下、認知症高齢者が日々、笑顔で安心して暮らせるようにしている。近所に散歩や買い物に出かけ地域との交流を図り、地域ボランティアの方々による慰問、学習、趣味活動を取り入れながら利用者の楽しみや残存能力を発揮できるように支援している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>情報収集・アセスメント目標を設定し、具体的な介護計画を作成、全職員が介護計画に沿った支援をする・入居者の職歴や能力に応じて支援しているが、認知症独自のアセスメント活用がなく介護計画に反映されていない。研修で学んだことをホーム内で活かす良いケアが出来るように全職員に周知や徹底されること・ミーティング時に報告し参加できなかった職員には資料を配布している。ヒヤリハット報告書の記録について・原因や対応、再防止策を職員全員で話し合い記録している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、ミーティング時、職員と自己評価について話し合っている。職員は、評価の意義や内容について理解し取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は定期的開催されている。市担当職員より地域の同業者との交換会開催やホーム便り作成、地域ボランティアによるセラピー体験等の提案があった。セラピー体験は行なったが、ホーム便りの作成や同業者との交換会の開催はまだ取り組まれていないので、今後、取り組む予定である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族が面会時に意見や要望を伺うようにしているが、直接言えないことを考慮して意見箱を設置している。不満や苦情は聞かれていない。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に入り、地域の行事に参加している。近所の方から散歩の途中、野菜や花を分けてもらっている。地域のボランティアによる演芸慰問や絵手紙、硬筆等利用者が楽しみや趣味活動ができるよう複数受け入れている。近くの中学校の生徒がホームに体験学習の訪れ、運動会には見学に行く等交流を図っている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域と交流し自分らしさを継続し心よ笑顔の生活」という地域密着型の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者に対して、理念に沿って接しミーティング時に話し合い確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、地域の行事に参加している。近所の方から野菜や花を分けて頂いたり、地域のボランティアを複数受け入れている。中学生が体験学習にホームを訪れたり、中学校の運動会を見学に行く等地域と交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、ミーティング時に評価の説明を行い内容について職員と話し合っている。前回評価の改善点については、積極的に取り組みをしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市担当職員・民生委員・家族代表等で構成され定期的に開催している。市担当職員から、地域の同業者との交換会開催・ボランティアによるセラピー体験・ホーム便りの作成等の提案があったり、ホーム側からは状況報告し、意見を伺ってサービス向上に活かしている。		

グループホーム なかま

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、事業所の今後の取り組み等を市担当職員に相談している。市担当職員が、ホームに連絡通知を直接、持参する等関係作りを行なっている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、制度についての理解ができていますが、職員は制度について研修する機会が無く内容の理解が不十分である。		市や福祉から発行されているパンフレットを活用して事業所内で勉強会を行い、職員全員が制度への理解を深めた。家族や地域の方々へ情報を発信できるように窓口パンフレットを準備することが望ましい。
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の近況や連絡事項・写真等を定期的に家族に送付している。金銭管理については、家族が面会時に領収書を添付し報告確認してもらっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見・苦情等を聞きだすようにしている。直接言えないことを考慮し玄関に、意見箱を設置している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職する職員に対し引き継ぎ期間を原則として1ヶ月としている。やむを得ない場合は、ホーム長や管理者が支援しながら利用者や新規職員が馴染みの関係を構築できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用時に年齢や性別で採用することはない。認知症高齢者と馴染みの関係を築く上で、長期間に働ける職員を重視している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は、職員に対し利用者への言葉使いや接遇を日々、教育・指導している。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会に入り、外部の研修に参加している。管理者は職員の段階に応じて研修を奨励し、職員も希望する研修に積極的に参加している。ミーティング時に研修報告し情報を共有している。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のブロック研修で、同市のグループホーム管理者と世話役を受け持ち他事業所に見学会に行く等、管理者同士の交流は図られているが職員の交流がない。		事業所の質の確保の為に同業者との交流や連携を管理者のみならず職員も理解し、勉強会や相互評価等を通じて具体的な取り組みを行うことを期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前からホームに本人と家族に来ていただくことや管理者が、自宅を訪問する等馴染みの関係が出来るようにしている。入居当日に、家族に泊まってもらうなど柔軟な対応を取りサービス利用を開始している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている	利用者の昔話に傾聴することで、思いを共感している。また、職員は職歴を把握しそれを活かした分野で能力を発揮できるようにしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、会話や表情で本人の希望をくみ取るようにしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を伺い、ミーティング時に意見を出し合い職員全員で介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画書は作成されているが、疾病による状態の変化や入院加療後等のアセスメントシートに記入がなく現状に即した介護計画となっていない。		認知症独自のアセスメントを定期的に取りながら職員全員が利用者の意向や思い・気づき等の情報を共有していく。また、病状の変化等については、医師や関係者の意見を記載した介護計画書を作成されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算の指定を受け、利用者の健康管理や体調変化時に対応している。家族による通院介助ができない場合の援助や利用者の希望に沿った外出支援を行っている。今後、地域の高齢者が事業所のショートステイを利用できるように検討している。		
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への受診している方もあれば家族の同意を受け協力医へ変更した方もいる。基本的に家族に通院介助をお願いしているが、できない場合は職員が行い受診や往診で治療を継続している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期について家族や主治医と話し合い、全員で方針を共有している。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを傷つけないように気をつけて言葉かけを行っている。また、個別ファイルは錠つきのキャビネットに保管されており、情報の漏洩防止に努めている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れは持っているが、利用者の意向を伺い体調に合わせ支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは可能な利用者と共に行なっている。職員が利用者の中に入り、介助や見守りしながら同じ食事をしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回定期的に入浴が出来るようにしている。毎日入浴を希望される利用者には入浴できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や洗濯物たたみ、野菜作りを職員と共に行なっている。絵手紙や硬筆など趣味活動を通じて楽しみや残存能力を発揮できるように支援してしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に近所を散歩したり、買い物や希望に応じて理容院に出かけている。時々、市外の大型スーパーに行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や出入り口は施錠していないため、自由な暮らしを支援している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルや緊急時の連絡網は作成されている。避難訓練は、年に1回行なわれ職員は避難路の確保や意識付けはできている。台所は電磁調理器具を使用している。		運営推進協議会などで、地域の消防団や住民の協力を働きかけたり、夜間を想定した避難訓練の実施を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日 1600cal- 1800caを目安に献立を立てている。食事の摂取量は個別に記録され職員が把握している。毎食時以外にもお茶の時間を設けており水分摂取量は大まかに把握している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のソファで、くつろいだり庭の花を眺めたり出来るようにしている。デッキから庭に出入りができ、季節の野菜を取りに行くことができるようにしている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、使い慣れたベッドや馴染みの家具や小物が置かれている。		